

組

竹下代極 沖本丸の房 八日旦西九内巻の事

出陣の旨 沖月通の事 此の事之日 極の意不之事

三月

寛保元年酉年八月

竹下代極の事 沖本丸の房 八日旦西九内巻の事

出陣の旨 沖月通の事 此の事之日 極の意不之事

八月

八月

忘服釋示之記

貞享二七年九月

一 向後忘後之業之日教之書有支配方近之旨
旨之 仰如之故後自以月付中 一石解之他物元
物係以月付 秋田奉古史 中流

同二宮奉古史

一 今般服忘令少之其後之業自今以後一古守其方以
依以 始其在府在邑之法大者及交解之書余亦之家業
今新大久保加賀之宛之味考之其初目一卷之古海之且又
右之家業其古史之田之故之録之古考之今般服其古史

淨法事ノ旨定或ク是書添ク右服忌令并淨法事ノ
免書乃能ク

一 先中并法進仕ノ面ニハ一先定大久保加賀守於此奥
お海ニテ

此介先中支配ノ仰ノ服中ニ先令ノ旨ハ右先定
添ク而モ合々大目付ハ加賀守お海ニ

服忌令

一 父母

忌二十日

服十三日

一 養父母

忌二十日

服百二十日

遺跡相續或分地配當ニ孝子ハ實父母ノこと

国月ニ加ヘテ

同姓ノ下ニ異姓ノ下ニモ養方ノ親類不沙實ノこと
若シ又服忌ノ下ニ莫乃方ノ父母ハ二十日十二月ノ
服忌ノ下ニ伯叔父姑ハ中藏階忌ノ下ニ兄弟姉妹
ハ中藏階ノ下ニモ此外莫ク方ノ親類ニ生ニ
後忌ノ下ニ遺跡相續セテ或分地配當セテ孝子ハ
同姓ノ下ニ異姓ノ下ニモ養父母ハ定或ク是服忌ノ下
此外莫ク親類相生ニ後忌ノ下ニ實ニ方ノ親類ハ
定或ク是お海ニ後忌ノ下ニ

一 嫡母

忌十日

服二十日

父存生ノ下ニ母モ又父死去ノ後モモ他嫁ル

死去し時ハ妾の子不可更服忌父離別去時
を以ては妾の子不更服忌

一 継父 忌十日 服三十日

一 但初より同居せしむる忌服

一 継母 忌十日 服三十日

一 父死去し後他へ嫁して死去し時ハ不更服忌

一 離別母 忌三十日 服百五十日

一 妻 忌二十日 服三十日

一 嫡子 忌二十日 服九十日

一 嫡子 忌二十日 服九十日

女子ハ室初し生れても末子に准す

一 末子 忌十日 服三十日

一 養子 忌十日 服三十日

家督にお定はし時ハ嫡子に同一其外ハ養子ハ
室或の猶忌より多し實方の父母ハ末子に准す

一 夫父 忌二十日 服百五十日

一 祖父母 忌二十日 服百五十日

一 母方 忌二十日 服九十日

一 舅祖父母 忌二十日 服九十日

母方にハ服忌等し

一 高祖母 忌十日 臘二十日

母方は臘忌云々

一 伯叔父姑 忌二十日 臘九十日

母方 忌十日 臘二十日

一 兄弟姉妹 忌二十日 臘九十日

別後云々と云々臘忌に別後

一 叔父兄弟姉妹 忌十日 臘二十日

一 嫡孫 忌十日 臘二十日

女子は元初に生れても末孫に准て父死去の後
祖父の家習たる時ハ祖父母しうと云々家父母の

一 末孫 忌三日 臘七日
一 娘方孫 忌三日 臘七日
一 舅孫玄孫 忌三日 臘七日
娘方ハ舅孫玄孫子臘忌云々
一 従父兄弟姉妹 忌三日 臘七日
父ハ姉妹ハ子孫母方ハ臘忌同条
一 甥姪 忌三日 臘七日

一 末孫 忌三日 臘七日
一 娘方孫 忌三日 臘七日
一 舅孫玄孫 忌三日 臘七日
娘方ハ舅孫玄孫子臘忌云々
一 従父兄弟姉妹 忌三日 臘七日
父ハ姉妹ハ子孫母方ハ臘忌同条
一 甥姪 忌三日 臘七日

姉妹の子と胎急同茶

- 一 七歳未満く小児ハ胎急但子死左の時ハ急急二日
其介同姓く親類ハ遠急一日尚歳くくといふ
同急死左の日教返く遊る不及遠急
- 一 剛急く事

- 一 遠急に在して死左一月を修く若急事といふ
父母ハ少付同日より急二十日後十三月外の親類ハ少
付同日より胎急返る日教く急く急く日教返く若急ハ
一日遠急後急ハ同急
- 一 急急胎急く事

父ハ胎急ハ事ハ不順に母く胎急ハ事ハ母ハ死左ハ
日より又十日十三月ハ胎急可急く不及二年後介り
おりき胎急ハ事ハ加急ハ胎急ハ事ハ日教返ハ遊る不及
後急若日教返ハ事ハ後急胎急ハ日教返ハ事ハ加急ハ
胎急ハ事ハ加急ハ胎急ハ事ハ父介同日よりおらハ
胎急可急ハ

縁く事

- 一 縁く事 父七日 母二十五日

在國より若急ハ月七日迄ハ不及縁

一 血荒 父七日 母十日

一 流産 父八日 母十日

一 死産 一日

一 端合 新水治身

追加

一 父死去の後母他一嫁し一死去し時の定式し
胎忌多し

一 産別し母し親類に不沙半減し胎忌多し

一 母父死去の後母他一嫁し一死去し時の定式し
胎忌多し

一 産父母し親類に胎忌多し

一 父し妻後忌多し但父妻に准は侍時の産母し
胎忌多し

一 妻し胎忌多し但子お生にをひては産忌三日

一 産別し祖母半減し胎忌多し

一 嫡子お果は以後二男ありても末子にては家督定る
時の産忌嫡子に准はへし次男にては家督有
定めず然時の末子に准はへし

一 春原たらししふとも如少くは長育せしれ或は命
とつて家督を継ぐ時の産父母し胎忌多し実父母し

同業

- 一 長徳の子七膳忌名御前、嫡子うらとつとも
末子につ雅、卯に親類同姓うらたをいへば
或は膳忌うらとつとも
- 一 同姓うらとも、長徳の子を人よと推し、
うらとつとも、膳忌うらとつとも
- 一 長子たつとも、長徳の子を人よと推し、
膳忌うらとつとも
- 一 中城、日敷二十日、忌ハ十五日也、
但三日、忌ハ二日也、七日、忌ハ二日也

以上

貞享四年二月

膳忌、倭清身分中上品
 高藏院殿上終、清對面、其之清實納、
 中、上ハ、清實母、其之清實納、
 中、膳忌、清實母、其之清實納、
 大藏院、膳忌、清實母、其之清實納、
 桂昌院、膳忌、清實母、其之清實納、
 清實母、其之清實納、
 清實母、其之清實納、

禁中方ノ例も承合中上事与此多相
可也此以之

二月

今度此初日光出門より此 領上其方下ノ夜
世方下守り

貞享又辰年五月

贈忌令追加

- 一 父死在ノ後母他ノ嫁一介死在ノ時ニ定式ノ
贈忌可更ス

- 一 若父死在以後後弟何方に在在并他ノ嫁世以ノ十
家智在續ニ在在母ノ贈忌可更ス

- 一 若父死在以後若母他ノ嫁一介死在ノ時ハ若女子等
贈忌

- 一 若方ノ母死在死在ノ後ハ對面等ノハノ嫡母ノ
准一ニ親類贈忌也

- 一 嫡母死在以後妻腹ノ出ル子継母若方ノ継母ノ
贈忌可更ス

- 一 父ノ縁者ノ出ル母ハ繼他ノ嫁世以父死在以後一介子
在在并離別ノ母ノ贈忌可更ス

- 一 離別し母の親類に不承半減し庶子を有す
- 一 離別し祖母に半減し庶子を有す
- 一 継父母に親類に庶子を有す
- 一 父母と養育上の伯叔父母に半減し庶子を有す
- 一 異父兄弟姉妹の親類に庶子に半減し庶子を有す
- 一 母方の親類に庶子を有す別居養母の親類にも同条より
- 一 嫡子お呆り以後次男ふてし未子ふくし家督と定款時ハ其庶子嫡子に准すへく次男ふてし家督と定款時ハ其未子に准すへく

- 一 養僕の子も庶子に別なり嫡子とすべし未子に準すハ其の親類同姓も承半減して定款し庶子可あり
- 一 家賊更ハ恩深き養子ハ分地配為と同条より
- 一 他家に遺跡相続ハ養子又實父ハ分地をも受けり養方實方ハ親類も承半減し定款し庶子可あり
- 一 他家に養子たるもの實方ハ嫡母をも継母ても養育せしむり養母半減し庶子又但養子月正しハ其庶子を有す

- 一 女子婚嫁以前より若くは式入舞を在家習は續く
 付ハ若方の親類不沙實のしくおはし暇を多し
 婚後少身若娘より成ル公家若方の親類不沙實
 楽に居或ハ暇を多し若方の親類不沙實父母に定
 式ハ暇を可多し伯叔父母兄弟姉妹に定減ハ暇を
 可多し若外若方ハ親類暇を多し若父母伯叔
 父母兄弟姉妹より定減ハ暇を也
 婚後若方個死去ハ若方親類にハハハハハハ
 相樂に暇を多し
 七歳未滿ハハハハハハ親類相樂若方ハ定式暇を多し

年月日教在急小を急多ハ

- 一 父ハ妻暇を多し但父妻に准言ハ付ハ継母乃暇
 可多し
- 一 妻ハ暇を多し但子おせよを以てハ急多二日
- 一 若子た若方の若方ハ親類他家ハハハハハハ
 には暇を多し
- 一 同姓亦ハハハハハハ一人ハ若方のつハハハハハハ
 急多方の暇を可多し
- 一 縁取の名氏を授けハハハハハハ地配急多ハハハハ
 若方ハ若方の親類定式ハ急多可多し

- 一 父母妻子兄弟茶家等に賤忌多しといふも身は賤忌かぶすけりて水端身穢忌
- 一 胎産後内死人多しといふ一日一穢なり但不知六節日と穢忌
- 一 家の方には死人多しといふ別棟ふり備完といふ穢忌く備完く者方に死人多しといふ別棟より家の方穢忌く但同棟ふり家の方備完のもの才小一日の穢也
- 一 急中へ家或死人、所或喧嘩或自害或病死、名く完に多しと謂合し穢也

- 一 形骸有し生息の分はて為生流形骸有し分た幾月あてもて為血荒
- 一 才減く日教ハ二十日、忌ハ十五日也解も是に唯そ但二日の忌ハ二日也七日の賤ハ二日也

口より見え

完前お後に追加し書付は穢忌用は追加し穢忌用は世書付賤忌年書ハ完前へ在り後を遠くは右極てと心知れぬ

元禄元年十二月

上野紅葉山坊上等淨業清心師

- 一 產穢く者も相火に冷水以て少く候事不若し
- 一 但 淨肉陳れども急ぎ候事但為日當六時より
- 一 同座同火少く候事候事 淨肉陳連し不若し
- 一 產穢く者 淨肉少く候事候事 淨肉六時より
- 一 淨穢く候事候事
- 一 茶仕候事候事 茶不候事候事 冷水以て少く候事
- 一 淨穢く候事候事 淨穢く候事候事 淨穢く候事候事

冷水以て少く候事

- 一 産月の婦人多く候事候事 淨穢く候事候事
- 一 候事候事 淨穢く候事候事 淨穢く候事候事
- 一 用事候事 淨穢く候事候事 淨穢く候事候事
- 一 血産候事候事 又下血候事候事 血産候事候事
- 一 小下候事 淨肉陳れども不若し
- 一 口中候事候事 血産候事候事 候事候事 冷水以て
- 一 不及し
- 一 痔麻病將切膝水少く候事候事 淨穢く候事候事
- 一 若し候事 淨肉陳れども不若し

一 脱水瘕の如くも膿血水が不中の一は供奉

御内陳まてし不若く自分く淨礼し不若く

一 産穢の婦人と本日産ふより同日産火を産く

久の供奉 御内陳まてし不若く

一 月水穢の婦人ありし 御内陳まてし不若く

同火不仕て供奉 御内陳まてし不若く

一 忌 御内陳まてし不若く 城も不若く但供奉を急可仕

脂し去 御内陳まてし不若く

一 産月と婦人ありし又難産と急病人ありしと
御内陳まてし不若く一は供奉

御内陳まてし不若く自分く淨礼し不若く

一 産血 御内陳まてし不若く 六時を外に水
浴せし不若く

一 乃志法に水水浴せし供奉 御内陳まてし不若く自
分く淨礼し不若く

一 けつやあらいし 血を去るし供奉

御内陳まてし不若く 御内陳まてし不若く

一 牛馬糞尿大羊糞をく内を洗ふ時朝の内を洗い

一 牛馬糞尿大羊糞をく内を洗ふ時朝の内を洗い

一 牛馬糞尿大羊糞をく内を洗ふ時朝の内を洗い

遠いりり穢後

- 一 牛馬糞取大羊死に一棟、内小居合蓋と依にり、明
六時より、蓋六時迄也。城仕り、夜に入りの依にり
答六時より、明六時迄也。城仕り、夜に入りの依にり
半時お、是れ、七、夜、夜を隔、是、は、夜、通、る、不、善、也
- 一 牛馬糞取大羊、介の、多、数、た、と、(朝、より、月、を、死、に
左、穢、云、し)

- 一 紫、内、馬、死、に、一、宿、(天、留、水、仕、を、傳、也
城、所、清、之、中、用、勤、り、も、不、善、也
- 一 牽、馬、死、に、五、也、也。城、所、清、之、内、用、其、勤、也、善、也

食穢之事

- 一 給、羊、糞、免、糞、糞 又、日
- 一 牛、馬 百、五、十、日
- 一 豚、犬、羊、麻、糞、糞 七、十、日
- 一 二、豆、六、前、日、(朝、六、時、より、夜、中、乃、家、に、至、り、子、の、糞、小、同、一
又、辛、前、日、(朝、六、時、より、夜、中、乃、家、に、至、り、子、の、糞、小、同、一
以上

正月 所社系之日

- 一 服、之、者、十、六、日、朝、明、六、時、迄、也、十七日 所社系、在、所

還所以後在太沙舟より往る

一 忌 清免之者十五日書六時退か十七日

御社系古源 還所以後在太沙舟より往る

一 清社系、由道身往くたふん及び此も不苦なり

一 惣清免承り火に改りし不苦なり

一 忌勝産穢の者と同日治る 清社系、御社舟より

清水往りし不苦なり 清内陳より往る或は往り

者、前日書六時より 同日同火は乃るなり

一 祭仕者御祭不致下りし清水御舟内往りては

休す 清内陳進し不苦なり

一 針仕の者不及を急以着向ふとわらひ 清水御舟内往り

ては休す 清内陳進し不苦なり

一 清内陳より往る或は往りし忌勝産穢の婦人と兼て

書六時より 同日同火は乃るなり

一 清内陳より往る或は往りし月水穢の婦人

よりしその忌勝産穢六時より 同日同火は乃るなり

一 忌の者、急りしその清水御舟内往りては

御内陳進し不苦なり

一 忌病人よりし者忌に依不承りしは 清内陳進し休す

休不苦なり自らし休し不苦なり

一 産月の婦人多く産後之候不承は倍専不苦
但 脚肉陳は重急之候を自らし洋礼可傳し

一 産月の婦人多く産後之候不承は倍専不苦
若産後 涉流之内 脚城之不承は倍専不苦
用事少付 脚城之不承は倍専不苦

一 痔下血麻痛後膿水少付候之候は倍専不苦
不承は倍但 脚肉陳之不承は倍専不苦
を自らし

一 版肛痔の候膿血水少付候は倍専不苦
脚肉陳之不承は倍専不苦

一 血血滲れ候又下血多し候は倍専不苦
候 脚肉陳之不承は倍専不苦
口中におもわゆる 血多し候は倍専不苦
不及し

一 吹かぬうり又たぐり候は倍専不苦
不承は倍血多し候は倍専不苦
及りけり候は倍専不苦
可仕候を自らし洋礼も不苦

一 痔事 脚肉陳之不承は倍専不苦
は倍専
不承は倍

一 乃志川の水汲水言 清月陳其の儀事并自記し
洋札七石若い

一 けり河やまもつこく血おれその 清月下場をみり振る
返りりも儀事なるを思はれ

一 牛馬雜承犬羊居家し月少く死に時朝し内少くなり
こま一棟一日けられり居る死にて穢す

一 牛馬雜承犬羊死に時一棟少くも忘きり入し入は透り
穢す

一 牛馬雜承犬羊死に一棟し内、居合重し依ふりて明六時
言ふ時迄也 穢す居るを不入るの依より言ふ時

明六時迄也 穢す居るを不入るの依より言ふ時
此の儀事居るを不入るの依より言ふ時

一 牛馬雜承犬羊の外し多歎たし(朝より内なる死
穢す)

一 宗の内馬死にり宿(在油の水仕を満す也
穢す清し清用勤らるる若い

一 去牛馬死にり外也也 穢す清し清用勤らるる若い
五月十二日 清社系刻由清しる五月と同日

一 四月十六日朝六時より膳を返す十七日七時分た右
此の儀事外法事正月 清社系刻と同日

- 一 九月 沙流 日月 同日
- 一 二月 朔日 沙流 頂戴 奉事 沙社 奉事 在 沙
流 右 勝 之 志 沙流 紅 糸 山 細 目 右 左 右 之 志
之 志 也
- 一 食穢 奉事
- 一 羚羊 狼 兔 狸 雞 五日
- 一 牛 馬 百六十日
- 一 取 大 奉 麻 袴 袴 七十日
- 一 二 日 八 前 日 朔 六 時 中 乃 忽 也 子 之 象 亦 同 之
- 一 大 奉 前 日 朔 六 時 中 乃 忽 也 子 之 象 亦 同 之

以上

- 一 正月 日月 九月 奉 每月 十六日
- 一 沙宮 沙宮 代 奉 仰 付 別 奉 十七日
- 一 沙名代 均 奉 沙 日 見 沙 流 奉 事
- 一 十六日 朔 六 時 中 乃 忽 也 者 退 也 沙 名 代 奉 仰 付 別 奉
左 右 沙 宮 代 奉 城 日 見 奉 六 時 退 也 十七日 沙 名 代 奉 海 外
以 後 左 右 沙 宮 代 奉 城 日 見 奉
- 一 沙 名 代 奉 時 沙 道 具 勝 之 志 及 沙 宮 代 奉 奉 事
沙 名 代 奉 者 明 也 仰 付 別 奉 又 沙 宮 代 奉 奉 事 沙 水
以 後 不 下 也 沙 宮 代 奉 奉 事 沙 宮 代 奉 奉 事 沙 宮 代 奉 奉 事

一 肉に不若い之志川くよ及りて穢しを成りて冷水亦不若い
一 湯名代之志に申す所の味お血ふと少おれ候事
ても冷水不及不若い

一 足腰痛穢し其日症同大冷水亦少く不若い
一 湯名代之志は脂痛穢し日症同大少くは前日
一 湯六時よりお改冷水亦 湯名代之作を承ふ事
一 痛穢し婦人と同症同大は前夜六時よりお改冷水
但 湯名代之者も同所

一 月水之穢多しと當日朝六時より同症同大少く
一 云しは二冷水亦少く不若い但 湯名代之志は

一 作付り前日之湯六時より月水穢しと同日症同大
お改て中い

一 谷化り去縦糸不裁少くは冷水亦少く不若い
一 湯名代之志も同所

一 汁仕は穢しを急不及い血をとおけり冷水
一 以中尚症少く不若い 湯名代之志も同所

一 湯名代之志も同所
一 湯名代之志も同所

一 湯名代之志も同所
一 湯名代之志も同所

一 淨名代の茶は其の味を過すは

一 産月之婦人多く去少痰氣き一試し其の相如

一 如産後之候ハ清浄ノ旨 淨名代茶多ク試之右ノ介

一 不叶用事不付 淨名代茶多ク試之右ノ介

一 痔下血麻痺腫痛膿水少カ家数不付ハ経多クハ不

一 若ハ但 淨名代茶多ク試之右ノ介

一 脱肛痔おりも膿血水不付ハ 淨名代茶多ク試之右ノ介

一 血腫おりも又ハ下血多ク去ハ血留りも冷水次身

一 右節若ハ但 淨名代茶不苦ハ

一 けりやまら紅血水おりハ

一 淨名代可憐しい 淨名代之茶血多ク是中ハ

一 冷水仕右節多ク試之 淨名代之茶自分付りや

一 あり仕血おりも亦時経流りハ冷水次身不苦ハ少血

一 少血付いハ経不々ハ冷水多ク不及ハ

一 房事ハ 淨名代茶亦付

一 乙志川の子ハ冷水次身不苦ハ 淨名代之茶も同様

一 牛馬糞亦大羊屎之月少ク死ハ時新ハ肉言ハ

一 けり一様一日ハ穢ハ若ハ少ク死ハハ穢云ハ

一 牛馬糞亦大羊屎ハ時一様少クも志きり多クハ入ハ

一 遠ハハ穢云ハ

一 牛馬雜承大羊死に一棟之角小形合置し候に候
 明六時より昏六時迄也 城仕り候に候入候ての
 候小ひり昏六時より明六時迄也 城仕り候に候
 在り候申時か候に候も 晝夜を隔し一に在り候
 不若り

一 牛馬雜承大羊以外の鳥獸た之斬りし内少く
 死に候様也
 一 祭日馬死に候に候一匹内水仕候に候
 城所清し所用勤り候に候不若り
 一 牛馬死に候に候也 城所清し所用に候に候も

不若り 御名代古御に候に候不若り

食穢に候

一 鞍羊狼免狸 又日

一 牛馬 百又十日

一 承大羊麻糍 七十日

一 二足に昔日、朝六時より 終中同候に玉子の候
 日

一 又昔前日、朝六時より 終中同候に
 以

元禄三年辛巳月

一 去年片 作書脂淨改書之日を條改書し後
此日付申取は解りぬ

二月 巳月 九月 毎月十六日

淨宮 淨名代 淨名代 淨名代 淨名代 淨名代

淨日 淨日 淨日 淨日 淨日 淨日

淨名代 淨名代 淨名代 淨名代 淨名代

淨名代 淨名代 淨名代 淨名代

淨名代

右ノ通 淨名代 淨名代 淨名代

同日 又申年九月

一 忌脂を惠ひ候は 候前、紙書付て至潤く大目付
此日付申解りぬ

一 子云く死去は名流に依りて多免親類縁者之日又他人
て七彰叙より知りて候は 家督に依りて表父の如く脂を可
く候く死去は者一妻ハ若丹同前たる一死去は七歳未
満より脂を二十日を以て信託に依りて親類に依りて
宜しく脂を多く候は 親類に依りて脂を多く候は
伯叔父姑兄弟妹ハ申候く脂を可く候く外に親類
は在りて脂を多く候は

一 菅子親書乃余奉命往法皇皇子以懐胎去りて家
智不日 作付内言後政死を以て日より定成り至平日
十三月一之階の事なり

改葬

至意一日

子に不沙を遺但承承りて遊方不沙を遺は之を以て親政
改葬の場は其母の心多し悲しむに及ばざるに及ばざるに
至子に親政縁を他人奉承するに其母の心多し悲しむに及ばざるに
再改葬するに承承りて他人奉承するに其母の心多し悲しむに及ばざるに

附振記の日より葬の日迄不沙日多しと云ふ事なり
至一葬の日より一日一を遺也

元禄六年十一月

是

高直親 以清親 以泰者有親 寺社奉行
清直親 以清親 大書院

右之合の時分忘中一日教養母方之儀事書付
月書之宛中如何後之儀事

知事文記

同日

以役人宛

大書院

右之如之宛合の時分具書付母方之儀事
大目付申述之儀事

以上

十月

元禄六年十月

是

法書院当頭 法小姓組当頭 新津当頭
 百人組当頭 法持弓法持筒当頭 大浦段
 越中弓法持筒当頭 法目付 法使当 法流当
 小十人組当頭 法船手 西丸法裏門当頭
 法納戸当頭 法腰当頭 法段炮方

二丸法留当頭 中奥流 文藝會当頭
 中川法当頭 法右筆 法眼当頭 法醫頭
 法書物当頭 小普請当頭 法車当頭
 小石川法殿当頭 孫田法普請当頭 儒者
 醫師 法馬尾当頭 伯樂当頭 法細工当頭
 法書物当頭 法同明 法教当頭
 右之御 法屋合之御 法具之書 法舟 法舟之儀
 月当 法奉當之儀 法舟之儀 法舟之儀

十一月

元禄六年十一月

腊忌令

一 父母

忌二十日

腊十三日

国月とかなふ

一 菅父母

忌二十日

腊百五廿

遺跡を續或分地配為し菅子の實父母のそと
同姓して異姓ふとも菅方の親類實のそと
相承に腊忌多し實方の親類に父母に定或
腊忌多し祖父母伯叔父母に定或し腊忌可
多し兄弟姉妹に定或し腊忌多し以外に
親類に腊忌多し

遺跡を續せり或分地配為し菅子の同姓して
異姓して菅父母に定或し色結忌多し菅方に
兄弟姉妹に定或し腊忌多し以外に親類
腊忌多し實方に親類に定或し色結忌多し
一 嫡母 忌二十日 腊二十日

背向してり不て父母腊忌を語してり背向して
腊忌多し父死して後他へ嫁し或は父離別する
にかわくは妻の子不て父母腊忌但嫡母に親類多し
腊忌多し

一 継父母

忌二十日

腊二十日

初より同居せされハ正脂忌

父死左ハ後継母他ハ嫁ハ或父離別セ多クお母ハ

不_レ父脂忌但継父母ハ親類ハ脂忌居_レ

一 離別_レ母忌六十日 脂十二日 四月を以て

一 父 忌二十日 脂十三日 四月を以て

一 妻 忌二十日 脂九十日

一 嫡子 忌二十日 脂九十日

家督ト定メ_レ居_レ時未子_レ脂忌_レ多ク女子ハ

畧知_レ生_レれ_レ未子_レ准_レ居_レ

一 未子 忌十日 脂二十日

若子_レ是_レ以_テも脂忌_レ別_レた_レ家督_レ定_レ居_レ時ハ
嫡子_レ脂忌_レ多ク

一 若子 忌十日 脂二十日

家督ト定_レ居_レ時嫡子_レ脂忌_レ多ク

一 夫_レ父母 忌二十日 脂百五十日

一 祖父母 忌二十日 脂百五十日

母方 忌二十日 脂九十日

離別セ_レ居_レ祖母_レ脂忌_レ別_レ居_レ

一 若祖父母 忌二十日 脂九十日

母方_レは脂忌_レ居_レ但_レ是_レ通_レ一日

一 高祖母 忌十日 服三十日

一 母方は服忌所は祖を急一日

一 伯叔父母 忌二十日 服九十日

一 母方 忌十日 服二十日

一 父母存続し兄弟姉妹は半減し服忌下る

一 兄弟姉妹 忌二十日 服九十日

一 別腹よりより別腹忌に半減し別

一 異父兄弟姉妹 忌十日 服二十日

一 嫡孫 忌十日 服三十日

一 嫡孫承祖たは時を嫡系に服忌下る祖父母

死去し時を嫡孫に寄り後二十日十二月に服忌可
更し此外に親族服忌別あり孫を孫より
より同日也

一 未孫 忌二日 服七日

女子は最初小生此より未孫に准し娘方一孫服
忌同也

一 孫玄孫 忌二日 服七日

娘方小は孫玄孫古に服忌下る

一 従父兄弟姉妹 忌二日 服七日

一 父北姉妹の子を母方より服忌同也

一 甥姪 忌二日 腊七日

姉妹の子を腊忌日祭

異父兄弟姉妹の子を祭く腊忌の事

一 七歳未滿し小児に忌腊忌

父母の二日を忌忌す而して親類に同姓しては其姓
ふくも一日を忌忌日敷く忌忌す追ふ不ぬを忌忌
但八歳より十歳或は腊忌の事

附七歳未滿し小児に忌忌す而して父母祭を
忌忌す又十日を忌忌其外に親類に一日を忌忌父母の
年月を経く忌忌す而して忌忌日より又十日を忌忌す

一 忌忌の事

忌忌す而して忌忌す而して忌忌す而して忌忌す
父母に忌忌す日より忌忌す又十日後十二月卯に親類に
忌忌す日より忌忌す而して忌忌す而して忌忌す
若し忌忌す一日を忌忌す而して忌忌す

一 忌忌の事

父母に忌忌す而して忌忌す而して忌忌す而して忌忌す
忌忌す日より又十日十二月の忌忌す而して忌忌す
忌忌す而して忌忌す而して忌忌す而して忌忌す
忌忌す而して忌忌す而して忌忌す而して忌忌す
忌忌す而して忌忌す而して忌忌す而して忌忌す

穢し事

一 産穢 夫七日 婦二十三日

産を回より告来七日迄は穢し

七日し月承りて沙石目散穢言へし血荒洗を月

を産の産穢の時と月引

一 血荒 夫七日 婦十日

一 流産 夫又日 婦十日

胎落者しは乃流産胎解之し可為血荒

一 死穢 一日

家し内なる人死に時一回し居合りて死穢可矣し

安産を産すやハ穢之し一回し居合りとも不
良ハ穢之穢之し二階少くも揚りて安産の外より
ハ穢之穢之し家より死に人死く時ハ穢之し
地中穢之家より死に穢之穢之し穢之穢之し
産す所ハ穢之ハ穢之穢之し穢之穢之し穢之

一 踏合 仍水次者

一 改葬 急一日

子ハ不穢を急但不可なり、退石不穢を急ハ不
潔りの穢改葬、場ハ穢之急之急之急之急之
親類其場ハ穢之急之急之急之急之急之急之

他人として一日を急ぎし

所堀記の日より葬れの日敷有しは子に承

堀記日と葬れ日と一日しを急ぎたる他人として

改葬し之日成りたる日即但堀記の翌日より

葬れ之日成りたる日即但堀記の翌日より

改葬し候を承りし中付日限存なりし其日を急ぎし

日限不付お海以後承りし追ふ不付を急ぎし

追加

一 若父死去以後若母同居世にすも他へ嫁せしむる

賤者可免し他へ嫁せしむるに承りし賤者免し

一 若父と妻若母の世に若父死去しは嫡母と唯一

親或賤者免し

一 妾賤し子嫡母死去以後後妻と承りしは

若母免しと承りし嫡母と賤者可免し若母を免し

一 若母定むる賤者免し

一 義親と嫡子と賤者免し若母可免し若母親

親免しと承りし賤者免し

一 家賤更に思ふ若子ハ分地記苗々日而たる

是承りし若子又実父と分地を七父より若方

実方親親若母と承りし賤者免し若方に定む

くは脂をうまう

一 若子たはその實方へ端母を継母とて若子を
更りにき誼を續く若子の端母継母を継く
うまうき誼を續せは若子の端母継母を
継るうまう

一 女子婚嫁の系より若いのを或入舞を元家留
右續く時の若方へ親類実のそくお家に脂を
うまう婚嫁の法より若方へ誼を分る若父母の定
脂をうまう若方へ兄弟姉妹のお家に中継り脂を
うまうけ外親類の脂を元実方へ親類の定を

おまふ不可更脂を

- 一 婚嫁未相潤内少くも後後存かりり一は夫婦は生
定或く若く日教つを若組脂を
- 一 父へ妻脂を若く組父妻の准を若所へ継母へ
脂をうまう若子の若方へ若父へ妻の月例
- 一 妻へ脂を若く組子お生よおわく二日を若血荒
流産より身よへ妻死を時を若母へ
- 一 若誼を續せは或分地配當せ若若子若方へ
兄弟姉妹他家へ居る若くその若は若脂を若へ
一 同姓若ても異姓若ても一人は若の法を若へ

一 子孫の養ひ 胎忌を叙す

一 名字を換ゆ斗ふてハ相保に胎忌法ハ本姓ノ方ニ
親類宜成シ在胎忌ノ方ニ

一 父斗ハ若子ナリ母モ胎忌を叙す母斗ハ若子に
ハリ父モ胎忌を叙す父斗ハ若子父ハ親類ニ胎忌
斗ハ父ハ母斗ハ若子ハ母方ハ親類ニ胎忌斗可
父ハ但名父ハ妻死去ハ時若子同居ノハリハリ
二十日を過ルハハ若母ハ妻も同日也父斗ハ若子
母斗ハ若子ハ若兄弟姉妹ハ胎忌無之例
附子分ソリハヒも少テハ相保に胎忌無ク

一 子孫ノ死去ハハ各法お續ノ多免新継リ家督

お續ル時ハ若父のトシニ胎忌ヲ叙ス死去ハ若ク
妻ハ若母斗准ハ死去ハ七歳未満ハハリ胎忌無
又十日を過ルハハ死去ハ若ク親類ハ若子ノ室或
シ胎忌ヲ叙スハ實方ノ親類ハ父母ハ宜成シ
胎忌ヲ叙ス祖父母伯叔父姑ハ半減シ胎忌
ヲ叙ス兄弟姉妹ハ若子ノ半減シ胎忌ヲ叙ス
ハ外親類胎忌無ク

一 若子ノ親書ハ若子ハ知事法叙ス其以後死去ハ
家督不定肉下テハ若父母斗又十月十二月ノ

臘意うまうし
 一 半減し日敷二十日八十又日也 降占准之
 但七日八日也三日二日也
 一 日と有こい為 宿く九時より明く初く九時
 と也 初めは雨もたふい思ふ事と云ふ 一日
 積也

元禄六年十二月

元禄八年九月
光

一 紅葉山 淨社系茶山王社淨系詣り時斗
 淨本丸因茶西丸為臘政中事
 一 紅葉山 淨名代寺外初言く 淨系詣りハ
 淨名代り時後西丸云々臘政不及事
 一 紅葉山 淨佛殿 淨系詣り春日光
 淨宮 淨名代向系 淨日見云々臘政時斗
 紅葉山 淨佛殿ハ臘く云々事
 以上

九月

元禄十三年六月

一 朕志令遊加(書付)正 作(為)同(在)大(目)付(每)留(付)了
法(白)書(付)取(後)了

一 娘(方)孫(姉)妹(方)物(娘)父(孫)妹(方)法(身)種
智(里)言(每)言(可)准(了)

一 又(母)若(子)系(以)種(智)了(伯)叔(又)娘(二)日(七)日(一)
朕(可)更(了)

六月

宝永七年二月

一 佛(先)代(佛)法(依)儀(評)了(至)末(了)至(了)至(了)至(了)至(了)
向(後)世(張)了(其)由(法)向(言)身(後)了

是

一 紅(系)山 佛(社)系(言)志(朕)并(福)了(志) 佛(社)系

前(日)言(六)日(了)退(方) 佛(社)系(尚)日 還(佛)以(後)也
城(了)仕(事)

一 佛(在)并(佛)收(勤)了(而)一(系)後(了)種(是)日(了)加(後)

以水堂 城下住事

一 忌脂并穢、若無指法用、若此所和之、此者以後、
有若事

二月朔日 淨境 淨頂戴身 淨法之儀

淨社系、在之、此淨日 淨境 淨頂戴身 淨法之儀

一 淨宮 淨法代也 淨社系、在之、此淨日、
胡 淨日、在之、此淨日、淨法之儀、淨法之儀、淨法之儀、

淨名代、在之、此淨日、淨法之儀、淨法之儀、淨法之儀、

一 淨名代、在之、此淨日、淨法之儀、淨法之儀、淨法之儀、

一 淨名代、在之、此淨日、淨法之儀、淨法之儀、淨法之儀、

以之

二月

是

一 正五根津 淨社系、在之、此淨日、淨法之儀、淨法之儀、淨法之儀、

淨日、在之、此淨日、淨法之儀、淨法之儀、淨法之儀、

一 淨名代、在之、此淨日、淨法之儀、淨法之儀、淨法之儀、

不及還也事

一 同 所名代也 仰付事 所名代之通日

朝轉様を 所名代之通事

一 同 所名代也 仰付事 高日之朝名膳并儀之

所目色及知退事は及也

所名代と海の事 所目色と之通事

一 同 所名代通事云之者之右日也

以上

三月

宝永七年八月

光

一 聖堂 所系清く付以依お願ひ及不及様を事

一 同高日之朝也 還所之膳儀之者又母之許

忘日通事者 但書又母之通事 所目色及知下事

八月

正徳四年二月

光

一 日光寺の在りし由

淨宮 淨宮屋澤礼 高日宮六所より精を
可憐に

一 淨宮 淨宮屋澤礼 高日宮六所より精を
可憐に

一 淨宮 淨宮屋澤礼 高日宮六所より精を
可憐に

一 淨宮 淨宮屋澤礼 高日宮六所より精を
可憐に

一 淨宮 淨宮屋澤礼 高日宮六所より精を
可憐に

為治不若の腹之者ハ清シム後ニ古仕不若ハ別大友
右日光雅治ハ 淨宮ニ知也切及去リテ書付別以
向後有振下也心得ハ

二月

日光 淨宮代内系礼事ハ 作付此後ハ

日光 淨宮代内系礼事ハ 作付此後ハ

日光 淨宮代内系礼事ハ 作付此後ハ

積を修する者ハ高日ノ胡糖を仕可修合ハ向後
右ノ通リハ人得方ニテ相違ハハ

二月

正徳又未年二月

元禄十二年正月野良志ハ相尋答ニ書付

一 今度沙法事ニ付日光ハ余ハ事トナシ、
先ハ他回ヨリも亦中紙極ニ終リ本人不承ハ
日光山中ハ勿論
御官ホハハ沙法事也 若ク石巻式ニ事

本人不承ハ後承取リハ何方ハ沙法事也 不承ハ

一 突悉照ノ後日光ハ亦他人承取リハ事トナシ、
亦中紙ヨリも本人不承ハ事トナシ、
本人ハ突悉照ノ後承取リハ事トナシ、
本人ハ突悉照ノ後承取リハ事トナシ、

本人ハ突悉照ノ後承取リハ事トナシ、

今度日光沙法事ニ付ハ余ハ事トナシ、
本人不承ハ事トナシ、

三月

享保二酉年五月

清社糸茶 清宮 清名代也 作付は節
清清之儀定永七亥年也 位知は登り方
手紙向ふに可り逢ひ

五月

同十八丑年七月

清宮 清糸清之別種糸又も此位は古紙
茶不膿水出膏茶不附療治の内云々
清江殿迄之勤徳名安に 勅額清門外迄之清紙

右若石痛く紙を湯中浸し半日は置かず

但年喰之膏茶を付はたす内も紙蓋ふに
紙に候も取れしに不若

七月

元文元年九月

脂忌令追加此度林大寺取外倫者其も吟味也
作付は名に書か或は除成者略し不取者も且今
脂忌之儀降附、林大寺取に取合は其細
其大寺取取合し不及紙而も平日取一

中は若部人下不し... 大月付内月付... 承合を
 向後... 身は... 依... 推... 依...
 一 向... 依... 依... 依... 依... 依...
 一 向... 依... 依... 依... 依... 依...
 一 向... 依... 依... 依... 依... 依...
 一 向... 依... 依... 依... 依... 依...

一 元文元辰年九月... 作... 依... 依... 依...
 三月... 日... 依... 依... 依...

元文元辰年九月

追加

- 一 昔父死去以後... 母曰... 依... 依... 依...
- 一 昔父... 妻... 依... 依... 依... 依... 依...
- 一 又... 依... 依... 依... 依... 依... 依...
- 一 依... 依... 依... 依... 依... 依... 依...
- 一 依... 依... 依... 依... 依... 依... 依...
- 一 女子... 依... 依... 依... 依... 依... 依...

- 一 時の名を寄し親類毎々しくしくおほに服忌をまゝし
- 一 婿依未お洞内少てし服依おかゝりし一は夫婦おほに
定成し忌し日ねうをまゝ

但服忌し

- 一 父し妻服忌し
- 一 妻し服忌し但子お生ふおあてい三日を忌血荒
流産ありし中少てい妻お生ぬの時を忌し
- 一 遺跡相續せし或分地配高せさるる名子名寄し
兄弟姉妹他家よ名寄しるる名に相承に服忌し
- 一 同姓少てし異姓おくも一人おあはれし續せし

まき方の服忌の更し

- 一 名字を換はし少ていおほに服忌しお姓まき方の
親類定成しを服忌し
- 一 離別し女はたとし實子ありし他は名姉弟夫婦し
縁し水荒おほし服忌し
- 一 子ありし死去し名海お續のた先親親よ家督
お續の時お名父のこゝろ服忌しありし死去し
の妻お名母に可唯し死去し七歳未満よりし服
忌し又十日を忌し死去し親類にお承り定
成し服忌しありし實方し親類に父母定成し

服忌の事一 祖父母伯叔父姑と半減し服忌の事一 兄弟姉妹は相承し半減し服忌可免し此布し親類服忌云々一 若子親書云々一 先帝 後云々一 以後云々一 家督不定内少くも若父母斗五十月十三日一 服忌の事一

一 半減し日限二十日二十日也解ハ准し

但七日八日也三日二日也

一日と云しハ為夜九つ時より四つ時の九つ時迄也九つ時迄にハたとしハ半世に少くも一日積也

右十六ヶ條元禄六年追加し内也今般御者略書載す

- 一 妾服し子共父嫡母継母に定むる時忌二十日
- 一 服十二月の事一 母方一 親類一 服忌若實し一 別家督相續し若子の事一 一 嫡母一 子継母一 服忌におもて也一 格次方右一 同一 但継母方一 親類一 小は指之云々一
- 一 家督相續し若子する者一 若母嫡母継母服忌云々一 地配尚せざる若子ハ右一 服忌云々一
- 一 若方一 伯叔父姑兄弟姉妹人に若多し其半減し服忌

可更ノ實方ノ伯叙父姑兄弟姉妹他家ノ者其
老レ後志ニ別

一 其ノ身者子に余リ實方ノ伯叙父姑兄弟姉妹ノ人
其ノ身者子に余リ實方ノ伯叙父姑兄弟姉妹ノ人

一 父者子ノ人ノ者子に余リ時ハ父ノ父母兄弟
姉妹者實方ノ者子に余リ時ハ父ノ父母兄弟

一 其ノ身者子に余リ時ハ父ノ父母兄弟
姉妹者實方ノ者子に余リ時ハ父ノ父母兄弟

一 其ノ身者子に余リ時ハ父ノ父母兄弟
姉妹者實方ノ者子に余リ時ハ父ノ父母兄弟

一 婿ノ人ノ者子に余リ時ハ父ノ父母兄弟
姉妹者實方ノ者子に余リ時ハ父ノ父母兄弟

元文元辰年九月十五日

別紙添書

一 父妾ヲ妻ニ准レハ其ノ腹ニケテ條狀發シ其陰ハ純ニシ

享保十八年妾ヲ妻ニ准レハ其ノ腹ニケテ條狀發シ其陰ハ純ニシ

以テ其ノ腹ニケテ條狀發シ其陰ハ純ニシ

一 父ノ身者子に余リ時ハ父ノ父母兄弟
姉妹者實方ノ者子に余リ時ハ父ノ父母兄弟

九月

元文元辰年十月

以受賄志令追加の内は除加の付先達を後在觸
を邪心以而も世を以て日月付日月付の内は除加
相札を二の事は若し以札不達を以て身は札成
候に於ては乃名を以て追加し余名を以て札成
可し候

右に経法合の面は家にては在り

同日未年九月

日光に系札を以て 作付而も茶以服
様未し候に身中別を未候痛不もに以て及
敷多に向後を押す候又も長病を各別
一通りし以て分る可し 作付而も候に
お紙離お御にてお紙離お御にてお紙離
右に経法合の可し候



